



陽気は幸せの種

No.108

2016. 3. 15

●ホームページからも「陽気だより」
最新号・バックナンバーをご覧いただけます

<http://yotokusha.com/>

陽気だより

図書出版 養徳社 〒632-0016 天理市川原城町 388 TEL 0743 (62) 4503 / FAX 0743 (63) 8077

養徳社

検索

昭和36年2月号から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で67年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。



藤人の寝言

岡島藤人

(昭和三十六年当時 養徳社社長)

入学期迫る

そろそろ学校の入学期が近づいてきた。誰も彼もが有名校に入学しようとあせっている。ご本人ばかりではない。それ以上に親たちまでが有名校に入学せしめようと、無理算段をしていることがある。これがはたして、これで幸せになるのであろうか。


大切なことは、学校を選ぶ前に、まず己の個性、己の能力を知ることが、何よりも大切であることを忘れてはならぬ。己の個性、能力、ないしは境遇など考えず、いたずらに有名校にさえ入学すれば幸福が約束されるように思っている人が多いが、これは決して正しい考え方とはいえないと思う。有名校に入学したということが、どれほど本人の将来を幸福にするか、それは分からぬ。そもそも教育を受けて生まれてきた個性や能力を磨くということである。自分の個性、能力というものを先ず第一に考えなければ、教育の本義にもとるのみならず、必ずしも幸せな生涯を送ることができるものではない。

これを別な例でいえば、今こういう色の着物が流行しているからといって、また、こういう型の洋服が流行しているからといって、その時その場の流行のみを追うことは、必ずしも賢明とはいえない。それがその人に似合うとも限らない。やはり自分の個性や身体に合うものを選ぶことが、最も無理のない似合わしいものであつて、ただ人の真似をして流行のみを追うことは、似合わないばかりか滑稽にさえなりかねないことがある。学校を選ぶにしても職業を求むるにしても流行を選択するにしても、すべてが同じことであつて、己の個性や能力や趣味や境遇を度外視して選ぶことは、決して正しい方法とは思えないのである。有名校に入ったがために、かえって不幸を招く人もある。大会社に入ったからその人の一生が幸福であるとは限らない。大会社ばかりで世の中が成り立っているものではない。中小企業もなくてはならぬことは


明らかである。仕事に貴賤上下の別がないように、学校にも貴賤の別があるわけではない。

大事なことは、己の個性に適した学校を選び職業を選ぶということである。われわれはややもすると己を知ることが忘れて虚栄心にとらわれ、人がどう見えるかということのみを気にしていることが多いように思う。人間の顔形が違ふが如く、各自個性も能力も境遇も相違しているのであるから、先ず己を知ることが何

目黒和加子
助産師の折り




子どもは
猫から
犬に変わる




パソコン・スマートフォンで
立ち読みができます

**養徳社の
おすすめ本**



読み込めない場合は養徳社 WEB サイトで
ご覧になれます。(http://yotokusha.com/)



よりも大切であることを思案すべきである。

入学期を目前に控えた今日、学校の選択を誤らぬよう注意してほしいものである。教育の本質まで忘れて虚栄に走るようなことは深く慎みたいものである。

眠る一円玉

われわれが俸給をもらった時、必ずといっていいほど、一枚や二枚の一円のアルミ貨が入っていない時はない。税金の関係で、こうした一円玉が入るのだろうと思われる。

また、買い物をして、つり銭に一円のアルミ貨をもらうことがたびたびある。つり銭にはアルミ貨が必要であることはいうまでもない。ところが何時かの朝日新聞の「天声人語」に書いてあったが、アルミの一円硬貨は、現在二十二億個も出ているということである。そしてその多くが眠っている、不足を招いているということである。

実際、一円玉が落ちていても、捨てるものもないくらいである。子供にやっても、馬鹿にして受け取らない。また、実際に、一円硬貨では買える

ものは何もない。したがって、一円硬貨は机の引き出しか洋服のポケットに放り込まれたまま目の目を見ないで眠っているのである。しかし、風呂賃は十七円、車賃は十三円、牛乳が十二円、新聞は八円という具合に、八百屋といいい魚屋といいい、つり銭としての一円硬貨は必要はなはずである。おつりにはもらうが、使う人が少ないのは何という手落ちなことであろう。

聞くところによると、今度更に造幣局で何億円かの一円硬貨を造るらしいが、この制作費が一円硬貨一枚について一円二十三銭かかるということである。一億円造れば二千万円の出ることになる。

なんとかこの眠れる何十億という一円玉を生かす道がないものだろうか。金がない金がないと困っている人の多い世の中に、使いたくない、かくも多くの一円玉が眠っているのがある。昔の人は、一銭の金を粗末にするものは一銭に困ると教えたが、一円玉があまりに粗末にされて、一円に困るようなことにならなければいいかと、それを心配する

るのである。一円玉でなければ物を買えないとか、一円玉なら物を売るとかいったような、特に一円硬貨を優遇するような方法でも考える道はないものだろうか。一円硬貨一個では何も買えないが、百万個集まれば百万円、一千万個集まれば一千万円という莫大な金額になるのである。国民が悪いのか、政府が無能なのか、罪はどこにあるのか知らぬが、袂たもとの糞くそのように扱われている国の宝を何とか生かす方法をみんな考えてほしいものである。

決して小さい問題ではない。眠らせておく一円玉があるなら私に下されば、「一円会館」でも各地に建てて、社会福祉か社会公共に活用させたいものと思う。学校で一円銀行で

もつくって子供の協力を借りることも一つの方法であろう。藤人の寝言かな。

養徳社営業予定

赤字は休業日

4月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

おつとめ

(1日～15日) 朝6:00
夕6:30

(16日～30日) 朝5:45
夕6:45

5月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

おつとめ

(1日～15日) 朝5:30
夕7:00

(16日～31日) 朝5:15
夕7:15

月刊『陽気』 定期購読受付中

お 店まで買いに行くのが大変。忙しくて購入するのを忘れた。定期購読はそんな手間を省きます。
毎月20日前後にご自宅宛に発送いたします。
(例：4月号は3月20日)

特集

母から受け継いだもの

連載

◎あんな生き方 こんな生き方

◎人権：“人として”生きている

定期購読料金 1年分…3,420円(送料込)

半年分…1,710円(送料込)

購読に関する問合せ先 養徳社 業務窓口

☎ 0120-920-398



Facebook で最新情報をチェック!

<https://www.facebook.com/yotokusha>

【陽気担当者変更届け】 陽気お取扱者ご担当者様のご変更の際、弊社ホームページよりファイルをダウンロードいただき 必要事項にご記入いただきファックス下さるか、メールでご連絡ください。折り返し担当者からご連絡させていただきます。

FAX…0743-63-8077 (24時間 年中無休) 郵送…〒632-0016 奈良県天理市川原城町388 養徳社 業務部

メール…yotokusha-eigyoku@poem.ocn.ne.jp